

# 神戈陵を渡る風2

令和4年度 川辺高校 校長通信 第062号(通算)

令和4年7月8日(金)発行

昨日は、7月7日の七夕でした。昔から、折り紙で七夕飾りを作ったり、短冊に願い事を書いて、手芸の上達などを願うものだったそうですが、どう過ごしましたか。七夕とは、織姫(おりひめ)さまと彦星(ひこぼし)さまが天の川を渡って、1年に1度だけ出会える7月7日の夜のことで、かつては旧暦の7月7日だったので、現在でいうと8月上旬~下旬ごろ。昔は晴天率の高い行事でした。

## 7月のいろ2

紅色  
べにいろ



### 紅色(べにいろ)

紫を帯びた鮮やかな赤色がとても印象的です。シルクロードを渡って日本に持ち込まれた紅花の花弁から採った色です。奈良時代には化粧品として使われるようになり、今も口紅などに愛用されています。

天壇青  
てんだんせい



### 天壇青(てんだんせい)

天壇とは、中国の皇帝が冬至の日に天に祈りを捧げるための祭壇をいいます。その天壇に施された美しい瑠璃瓦をたたえ、名づけられました。人々の祈りに満ちた霊妙な色は、青空に溶け込んでいくように感じられます。

萱草色  
かんぞういろ



### 萱草色(かんぞういろ)

萱草の花びらのような橙色です。咲いて一日で萎む萱草の儚さが「凶色」とのイメージを与え、平安時代には喪に服す際の着物の色に使われました。その一方で「憂いを忘れる」という良い意味も持っています。

### 二十四節気の「小暑」(しょうしょ)

2022年は7月7日から7月22日が小暑  
梅雨が明け、暑さが日増しに厳しくなるころ。



あちこちで元気なセミの鳴き声が聞こえはじめ、サルスベリは鮮やかなピンクの花を咲かせます。「小」暑なので、その

次には「大暑(たいしょ)」がやってきます。それこそ、「暑くてたまらん」という季節になりますが、今年はまだ既に大暑になったような・・・

# 茅の輪くぐり (ちのわくぐり)

神社に草木で作られた大きな輪が設置されているのを見たことはありませんか？ それは「茅の輪(ちのわ)」といい、この茅の輪をくぐることを「茅の輪くぐり」といいます。6月30日は夏越えの祓(なごしのはらえ)、12月31日は年越しの祓(としごしのはらえ)といわれています。茅の輪は、この日の前後に設置されているようです。

茅の輪くぐりは、ただ輪をくぐり抜けるものではなく、唱え詞(なごえば)を言いながら茅の輪をくぐり、心身を清めて厄災を払い、無病息災を願う行為です。やってみませんか？

## 茅の輪くぐりの作法

### ①ご本殿に向かって一礼

まずは手水舎で手と口を清めましょう。その後、茅の輪の前に立ち、ご本殿に向かって一礼をします。

### ②一周目(左回り)

茅の輪の正面に立ち、一礼します。その後、左足で茅の輪をまたいでくぐり、輪っかの左側を通過して正面に戻ります。

### ③二周目(右回り)

茅の輪の正面に立ち、一礼します。その後、右足で茅の輪をまたいでくぐり、輪っかの右側を通過して正面に戻ります。

### ④三周目(左回り)

茅の輪の正面に立ち、一礼します。その後、左足で茅の輪をまたいでくぐり、輪っかの左側を通過して正面に戻ります。

### ⑤お参り

そのままご本殿に進み、お参りします。

代表的な唱え詞は、「祓へ給ひ 清め給へ 守り給ひ 幸へ給へ (はらえたまい きよめたまえ まりたまい さくわえたまえ)」というもので、「お祓ください、お清めください。お守りください、幸福をお与えください」という意味です。神社によっては、異なる唱え詞を唱えるところもあります。



かわなべ二日市のときの茅の輪



正月の竹屋神社(加世田)の茅の輪

# 防火防災避難訓練

令和4年7月1日(金)



皆さんは、川辺高校の体育館が南九州市の災害時避難所に指定されているって知っていますか？

梅雨は明けましたが、台風や地震などの自然災害や火災等は、いつ襲ってくるかわかりません。自然災害が多い日本では平時の備えが欠かせません。今回は、火災を想定した避難訓練が実施されました。防火シャッターが降りると、普段と異なる経路を移動することになります。自然災害時の迅速な初動を心掛け、さらに、災害時の自助・共助をどの様に自分が出来るかを学びましょう。また、毎日普通に生活できることに感謝したいものです。



## 大先輩からの寄贈

今年も、元同窓会長の前野政美様から野球部へ硬式野球ボールの寄贈がありました。7/1(金)同窓生の中馬 悟様が来校されて、野球部主将の瀬戸口大河さんと藏監督が受け取りました。今年は、単独チームでの大会出場となります。本当にありがとうございます。



ボールは、大切に使用させていただきます。